

中 Yokoso Obara Linkai
山里暮らしのあれこれ

Take Free [0円]

おはらのじかん

— 第34号 —

2025 Summer

巻頭
特集

小原暮らしがちょっと楽しくなる和な習い事

おばらのお稽古

ほっこり日常がゆたかに



小原人集まれ!

「ようこそおばら委員会」

小原人
以外でもOK

『小原中学校一年生連載が始まります!』

『マンガイカくんキンちゃんの小原日記』

『小原いろいろ情報』

おばらのお稽古



真・添・留を教わる生徒さん

があり先ほどの教室の中でも「生花」を生けている方がみえました。生徒さんが花を生けるのを見ながら、和加さんが手直ししたり指導をしたりしています。生徒さん曰く、和加さんがほんの少し手直しするだけで全然違ってくるそうです。和加さんは正面ではなく裏側から見ているにもかかわらず、的確にアドバイスされます。また、和加さんは花材そのものの枝ぶりを見て、花や枝を切る場所でも違ってくる、花を活かして生ける、とのこと。終わったあと同じように家に持って生けても、なかなか再現が難しいそうです。花材はお家から持ってこられる方もみえるそうで、小原という土地柄花材には困らないようです。豊かな自然の恵をいただいている自分の手で生ける。小原はもしかすると、華道にとっても適した土地なのかもしれません。



左から五代目家元小林一彦さん、和加さん、幸枝さん

【遠州古流】の魅力は？と生徒さんたちに聞いてみると、また「遠州古流」の魅力を教えてください。と和加さん、幸枝さんに「いいお弟子さんや生徒さんに恵まれてありがたい」と言う和



加さんの人柄によるものも大きいかもしれません。そしてみんなで美味しいものを食べながらする花談義。取材中も花の育て方や増やし方などとても楽しそうでした。この教室に15年通う方が「花を生けるようになり、花や枝もみるようになった」というのも印象的でした。華道という学びからあらゆることにつながり、その二つと丁寧に関わっていくことの楽しさを知るといことなのかなと思いました。

【遠州古流】は年に一回、春3月頃に「華展」が開催されます。大作の作品や「生花」の作品がズラリと並んでとても見ごたえがあるそうです。設営も前日からみんなで協力してつくりあげる「華展」です。来年は是非足を運んでみてください。なんだかホッとするとお花を見に行きませんか！生徒さんも募集中です。

M.M



終始和やかなご自宅での教室の様子

取材が決まり、早々に教室のあるご自宅に伺うと中からは笑い声が…。この日は、生徒さんが4人と和加さんと五代目家元の奥さま小林春幸庵（幸枝）さん。お花の香りと花を切るハサミの音。そして楽しい会話。笑いが絶えない、それでもみなさん花に向きあう顔は真剣そのもの。この「遠州古流」先々代より小原ですつと教えてみえた華道教室。花が大好きで、地元の人たちに華道を教えた！と旭・藤岡地区まで歩いては教えに行っていたそうです。

習った生徒さんから「なつかしい」と、手紙をいただくこともあつてとてもうれしい！と五代目家元小林春秋庵（彦）さんは目を細めていました。

ここまで教室が長く続く秘訣は？と聞いてみると昔ながらの生け花でつくったものではなく自然にあるままを生ける。花そのものを大切に。そして、生徒さんには楽しんで続けてもらいたい。先々代からの変わらぬ精神が愛されている理由でもあるようです。

そもそも華道って…。華道の生け方には大きく分けて3つ。「生花」「盛花」「投げ入れ」とあり（流派などによって違いがあるそうです）中でも「生花」というのは、真（しん）・添（そえ）・留（とめ）という基本の型

ある方からこんな声をいただきました。「是非、取材していただきたい方がいる！」：誰？「遠州古流」という華道を教えてみえる、小林春幸庵（和加）さん。94才にして現役の華道の先生。

【遠州古流】？「94才で現役の華道の先生」！



華道・遠州古流



交流館での練習風景、ガラスを鏡のように使い所作のチェックも

いつから始まったのですか？
平成5年4月に始まりまし
た。今年でなんと31年目になり
ます。もともとは村おこしのため
に、小原村公民館講座の太鼓教
室としてスタートし、同年11月に
は「和紙のふる里太鼓」と命名さ
れたそうです。その3年後に教
室から独立して活動を始め、現
在に至っています。当初は男性も
含め20名以上のメンバーが在籍し
ていました。尾形さんは興味は
あったものの、入会をためらって
いました。しかし祖母の勧めもあ
り、家族に「太鼓をやりたい」と
話したところ、みんなが背中を押
してくれて参加することになり
ました。入会したのは結成から
4か月ほど遅れた8月でした。
昔は地元の祭りでは男の子しか
太鼓を叩けなかったこともあり、



和紙良いフェスタでの出演の様子

和紙のふる里太鼓

小原のイベントのオープニングなどおなじみの「和紙のふる里太鼓」さん。
いつも本当に楽しそうに、飛んだり跳ねたり、ぐるっと回ったりと、
パワフルな演奏を披露されています。今回は代表の尾形かをるさんにお話を伺いました。

代表になった経緯は？

最初は小学校の坂本先生が教
えてくださいました。しかし先
生が病気を患われたことをきつ
かけに、太鼓が大好きで、ビデオ
を繰り返し見ながら熱心に研究
していた私が、年上の方もいる中
で大抜擢され、代表を務めるこ
とになりました。それ以来、20
年以上にわたり代表を続けてい
ます。「今が一番いい感じじゃない
かな。メンバーもすべてね」と尾形
さんは語ります。

演目はどのようなものですか？

八丈島や三宅島で伝承されて
いる郷土芸能の太鼓も演奏しま
すが、なんとほとんどは「和紙の
ふる里太鼓」のオリジナル創作太
鼓！中には田代川や四季桜、地
元の風景をイメージした曲もあ
ります。「振り付けをこうしよ
うか、ああしよいかと常に考えて
います。オリジナルの曲を叩いて
いると、やっぱり和紙のふる里太
鼓という感じがするんです。」

練習はどのくらいの頻度で行っているのですか？

現在は小原交流館で、毎週木
曜日の夜に1回練習していま
す。出演が決まると、火曜日と
木曜日の週2回に増やすことも
あります。

イベント出演はいつごろですか？



熱心に中学生に教える都築先生

最初に先生は中学生に、「今からお琴の
演奏を1曲聴いてください、2曲目はみん
な歌ってね！」と意味深に笑顔で言われま
した。1曲目は「アンパンマンのマーチ」お琴
の音色でいつもと、イメージが違う曲に聞
こえました。意味深な2曲目は何かなあ
と思っていたら、なんと中学校の校歌でし
た。中学生は、「おおー」と思わず声を出
し、音楽の森下先生のピアノも入りみんな
で大合唱！ここでみんな心を掴まれまし

お琴教室 生田流 正派（第三弦）

6月30日、小原中学校1年生22名による音楽の授業「箏の基本的な弾き方を身につけよう」へお邪魔しました。
講師は小原地域に住む、生田流 正派（第三弦）都築雅楽明（明子）先生とお弟子さん4人です。
先生は、20代のとき大師範のお免状をとって、お琴の先生になられました。
先生の趣味は多趣味で、スポーツカーに乗り、夏はダイビング、冬はスキー！とても80代にみえない若々しさでした。

た。次にお琴について、流派の説明やお琴は
何の木でできているかを話してくれまし
た。「お琴を竜に例えると、頭は？眼は？
しっぽは？さて「舌」はどこにあるでし
う？」みんなお琴に興味津々。琴の説明が
終わったら明日のミニ発表会のために3
部屋に分かれました。ペアでひとつのお琴
で「さくらさくら」の練習をしました。

私もお琴の体験をしたことがあり、とて
も難しかったのに、中学生はやはり飲み込
みが早くサクサク覚え、さすがだなと感心
してしまいました。1日目でもう発表会
ができるくらいの上達ぶりでした。1年に
2時間の音楽の授業でここまでお琴を弾
けるのは楽しく、明るい都築先生のご指導
もあってなんだと関心しました。生徒たち
にも貴重な体験になったと思います。

先生のご自宅へも取材に行きました。教
室は笑いが絶えない雰囲気の中、お稽古が
始まりました。モットーは楽しく！とのこ
とです。生徒さんに先生の感想を聞くと、
「見ての通り、明るい先生です。」「はつらつ、
サバサバとしていて粋にとられず、だから
こそ30年近く続けられている。」「お琴を
知り合いの方からもらったのがきっかけで
はじめました。私はまだ20年経っていませ



ご自宅での練習の様子

M.K



今年から入会した小学生の練習風景

化祭で発表できるように、一生懸
命練習中とのこと。
舞台で見てもらいたい所は？
やはり手を挙げた時の高さや
目線、構えなど、揃っているところ
です。男性のように力強さは出
せませんので、揃えることに細や
かに気を配っています。

長く続けられる秘訣は？

「好きだからこそ続けられる
んです。嬉しくて、やりたくて、
叩きたくてーそんな人ばかりが
集まっています。」「尾形さんは練
習が苦になったことはなく、熱が
あつても練習に参加し、太鼓を叩
くと熱が下がりましたことも
あるそうです。天職というか、本
当に太鼓が大好きなんだと感
じさせていただきました。

メンバー参加のきっかけと感想

多くの方がイベントや交流館
での演奏を見て「かっこいい」「衣
装が素敵」と憧れ、入会されまし
た。最初は迷いながらも太鼓の
音や雰囲気にながれて続けてい
るそうです。感想としては、年齢
を重ねても新しいことに挑戦で
きる喜びや学生時代のような緊
張感、仲間とのつながりやイベン
ト出演の楽しさなど。「楽しいか
ら続けられる」という声が多く、
皆さん笑顔で語ってくださいま
した。太鼓に興味のある方は、ぜ
ひ練習をのぞいてみてはいかが
でしょうか。

T.S



小原交流館での発表の様子、揃っている所作に注目！



小原中学校の連載が始まります！

このたび、私たち小原中学校一年生が『おぼらのじかん』にて連載を担当させていただくことになりました。次号から本誌の一部をお借りして、中学生目線での小原の魅力を皆様にお届けできたらと思います。同、やる気十分です。次に、生徒たちのひとことアピールを載せました。今後ともよろしく願っています。（小原中学校 年生担任）

一生懸命頑張ります！
こんにちは！小原のために頑張ります！
黒板の消し忘れから第二の黒板が生まれました。
きい太 さぶ郎 魅力を発信します！
『おぼらのじかん』に載せてくださりありがとうございます。
I love ☆小原
小原は、とてもいいところです。よろしく願います。
小原の三大魅力、桜、歌舞伎、和紙を発信するぞ！

天かすが天ぷらになったときに生まれました。
こんにちは！元気に楽しくいきましよう！
小原の綺麗な自然が大好きです！！
一年間、いろいろな取り組みをがんばります！
おぼ中学生として小原の魅力を発信！
この二年間小原の魅力をたくさんお知らせします！！
小原の魅力をたくさん伝えていけるようがんばります！
小原に感謝
素敵な小原の魅力を発信できるよう頑張ります。
私も読んでいるそのあなたも一緒に楽しみましよう！
頑張つて小原の魅力広めるぞ☆
初めての連載頑張るぞ！
小原の魅力をさらに知ってもらえるように頑張ります。



今年も豊田市内で開催される「Rally Japan 2025」の中で、小原が新コース「OBARA SS」として登場します。四季校には少し早い時期ですが、里山らしい風景の中をモンスターマシンが駆け抜けます。

小原での開催を盛り上げるため、おぼらラリーをいかにしたまわづくり実行委員会」が発足。世界から訪れる人々に小原をPRし、地域を盛り上げます。さらに、小原独自のロゴは地元出身でラリーのコドライバーを務める安藤裕一さんの力作。大会への期待もますます高まっています。小原に関わる皆さん、一緒に盛り上げていきましょう！

11月8日(土) 小原の公道をラリーカーが激走！

今年も豊田市内で開催される「Rally Japan 2025」の中で、小原が新コース「OBARA SS」として登場します。四季校には少し早い時期ですが、里山らしい風景の中をモンスターマシンが駆け抜けます。

小原での開催を盛り上げるため、おぼらラリーをいかにしたまわづくり実行委員会」が発足。世界から訪れる人々に小原をPRし、地域を盛り上げます。さらに、小原独自のロゴは地元出身でラリーのコドライバーを務める安藤裕一さんの力作。大会への期待もますます高まっています。小原に関わる皆さん、一緒に盛り上げていきましょう！

おぼら地区の物件を探すなら！

豊田市 空き家バンク

www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

ようこそおぼら委員会公式SNSに登録してくださいね。

◆ 小原いろいろ情報 ◆

- 〔10月4日(土)〕軽トラあんどんパレード
小原の山道に連なる、軽トラあんどんは見応えあり
(和紙のふるさと駐車場着)
- 〔10月26日(日)〕小原文化まつり
小原歌舞伎公演
小原交流館
小原歌舞伎の公演をはじめ、小原地区の芸能や交流館講座の発表会
- 〔11月〕小原四季桜まつり
(小原地区)
秋に咲く桜をご覧ください
11月15日・11月30日
- 〔11月8日(土)〕Rally Japan OBARA SS
パブリックビューイング
おぼらマルシェ with 和紙良いフェスタ
(和紙のふるさと)

今年もラリーのパブリックビューイングとトリプル開催！地元のお店も多数出店するクラフトマーケットと和紙ワークショップなど盛りだくさん。駐車場：小原中部小学校

小原白宇感 編集後記

ひとつのことを学ぶということは、それをきっかけにあらゆることに繋がっていき、出会ったまたその一つ一つと丁寧に関わっていくことでその楽しさを知っていくことなのかなと思いました。

M.M(今回編集長)

お琴の取材に行き、間近でお琴の音色を聴いていたら、私もお琴を弾いてみたくなった。先生と一緒に「さくらさくら」を演奏し終えたときは達成感でいっぱい。習い事で先生や仲間と出会い、より生活が充実すると思った☆

M.K

小原のことに多少詳しいかなと思ってましたが、小原にお琴教室や華道教室があるとは知りませんでした。まだまだ知らないことはたくさんありますね～。日々アンテナを張っていきたいと思いました。情報提供もよろしくお願いします。

T.S

取材委員大募集～！

ようこそおぼら委員会では取材に関わっていただける方を募集しております。年1～2回程度の取材でレクチャーもします。気軽にお問い合わせください。